

社会科学学習指導案

日時 平成14年1月12日(火) 第3教時
生徒 岩内第二中学校 第1学年2組 34名
指導者 伊藤 義浩 駒場 秀剛

1. 単元名

「1. ヨーロッパ人との出会いと全国統一 (戦国の動乱)」

2. 単元について

○鉄砲の伝来

天文12年(1543)8月、中国船が暴風雨に遭い、種子島(たねがしま:鹿児島県)の南端門倉岬(かどくらみさき)に流れ着いた。乗船者は、見なれない服装をしており、言葉も通じず、村の責任者は乗船者の一人と砂の上に字を書きあうことによって、言葉を通じることができた。そして、この船にはポルトガル人の商人が乗っており、貿易の目的でやって来たということがわかる。

数日後、乗船していたポルトガル人を島の領主種子島時堯(ときたか1528~79)にひき会わせた。このとき、3人のポルトガル人は、それぞれ長さが3尺(約90cm)ほどの重そうな棒を持っており、中に穴が通っていて片方の端はふさがっていた。中に不思議な薬をいれ、小さな鉛玉をそえて置き、その棒を取り上げて身がまえ、片目をつぶって的確をねらって火を放つと、一瞬、雷のような光りととどろきが起こり、みごとに的を射ぬいた。時堯は、まだ若い領主でしたが、鉄砲の威力におどろき、2挺の鉄砲を大金で買い求めました。これがいわゆる「鉄砲の伝来」である。



多くの鉄砲が戦場の場で使われるようになると、それまで主力部隊だった騎馬武者は、鉄砲の標的になりやすいため、徐々に戦いの中心は、鉄砲隊をふくむ足軽隊による集団戦法に移っていくことになる。

○キリスト教の伝来

天文18年(1549年)、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが日本布教の為、薩摩に上陸した。そして領主島津貴久の許可を得て、初めてキリスト教を伝えた。

十六世紀、ドイツの神学校の教授マルチン・ルーテルが唱えた新教(プロテスタント)を契機として、宗教改革運動が北部欧州に起こった。南部欧州ではその反動として旧教(カトリック)保護運動が起こったのである。

イスパニアの貴族イグナティウス・デ・ロヨラは、同志と共に、1534年(天文3年)結成し、1540年(天文9年)ローマ法王の許可を得てイエズス会を興した。その信条は「貞潔・清貧・エルサレム巡礼」で、法王の命令に従い、キリスト教の敵と戦うことである。そこでイエズス会の宣教師たちは、失われた北部欧州に代わるべき旧教流布の世界を、全世界の新天地に求めようとしたのである。

ここにフランシスコ・ザビエルがインドに派遣された。彼はマラッカ地方で布教に従事していたが、アンジロー(安次郎?)という薩摩出身の青年と出会い、彼の道案内で鹿児島にやってきたのである。

3. 研究の視点との関わり

○T・Tの活用を通じた多様な学習指導

「なぜ、そうなったのか」「そう考えた理由は?」結果としての学習ではなく、問題を解決するためのプロセスを重視していく。昨年度より、歴史的分野の授業において、本年度は、地理的分野と歴史的分野で、T・Tによる授業実践を繰り返してきた。生徒の思考をきめ細かく支援すると同時に、新たな視点の提示・教師によるディベートの展開など、二人の教師の補完的関係を生かしながら生徒達に課題を投げかけ、生徒自身による解決活動を重視する授業の研究を進めている。結論や結果を知るのではなく、その導き方を身に付けることを大切にしていきたい。

○発展応用的な学習

社会科としての教科の特性を生かし、生徒の学習活動をより深いものとする事ができる。例えば、歴史的な事象などに強い、興味や関心を持つ生徒の場合など、学習の充実感を味わうことができるよう、個別の調べ学習において、発展的な個別支援体制を充実させることができる。

○繰り返し指導・個別指導

地理的分野での統計処理や地形図の読み取りでは、繰り返し指導による学習活動の充実が必要とされる場面である。生徒一人ひとりの学習ペースや理解に合わせて、個別に繰り返し指導を行うことで、学習効果を高めることが可能になる。

○専門性を生かした授業の構成

社会科と一口に言っても、地理・日本史・世界史・政治・経済などに分けられ、さらに、考古学・古代史・中世史・近代史・現代史など、各教師のもつ専門性は様々である。それぞれの専門性を生かすためにも、各教師が協力し、相互に専門情報を交換しあうことで、より内容の深い授業を展開することができる。

4. 指導計画（東京書籍「新しい社会／歴史」）

第4章 近世の日本

1. ヨーロッパ人との出会いと全国統一（7ユニット）	
1. 鉄砲とキリスト教の伝来	1（本時）＋0.5
2. ヨーロッパ人来航の背景	2
3. 織田信長・豊臣秀吉による統一事業	2
4. 兵農分離と朝鮮侵略	1
5. 桃山文化	0.5

5. 生徒の実態

数的な表現・処理を中心に基礎基本の徹底を図る必要のある生徒集団であると言える。このため、各教科で今後、数学で養われるべき力を必要とする場面において、学習が鈍化してしまう可能性がある。

上記のような、事象を未然に防ぎ、生徒達の学力を向上させていくために、社会科では、特に論理的思考力を養い、生徒一人ひとりの統合的な学力を育てていく必要がある。

社会科（歴史的分野）についての興味・関心、知識理解の度合いは千差万別であり、概論的に述べることは難しい。ただ、社会科の学習を進めるにあたって必要な「資料活用」「資料整理」といった技能については、どの生徒とも今後の成長が期待される。

これまでの社会科の授業では、TTによる指導などにより、各課題に対する思考場面において、その深化を図ることに指導の重点を置いてきた。今後も継続的な指導を行うことで、学習目標に迫ることができるよう努めたい。

6. 単元の目標と評価

○各学習時間の学習目標

1. 鉄砲とキリスト教の伝来

- ・戦国大名の領国支配の様子を、城下町や領国経営の様子などから理解する。
- ・この時代に伝わった鉄砲とキリスト教が急速に広まった理由を考える。

2. ヨーロッパ人来航の背景

- ・ヨーロッパ人が新航路を開いた目的を、おもにヨーロッパとアジアの関係から考える。
- ・ルネサンスや宗教改革など、15～17世紀のヨーロッパで起きた動きの概略を理解する。

3. 織田信長・豊臣秀吉による統一事業

- ・信長と秀吉の統一事業の過程を、その経済政策、宗教政策などと関連させながら理解する。
- ・数多くの大名の中で、織田信長や豊臣秀吉が全国統一に成功した理由を考える。

4. 兵農分離と朝鮮侵略

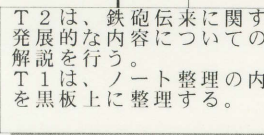
- ・太閤検地と刀狩によってそれまでとどのような点で異なった社会が生まれたのかを考える。
- ・朝鮮侵略のあまらまじと、それがその後の日本に与えた影響を理解する。

5. 桃山文化

- ・桃山文化の特色を建築・絵画・芸能などから理解し、その特色が生まれた理由を考える。
- ・ヨーロッパ人の来航によって、生まれた物資や文化の交流の様子と、その影響を理解する。

7. 本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	学習形態	T 1	T 2	評価観点	基礎留意
導入	ふりかえりと課題把握	確認を行いながら学習課題をつかむ。	グループ	全面パネル支援	カード配布支援	関態資料 発表カード回収	T 1 は、パネルを使い全体へ指導。 T 2 は、各個人に対する個別指導。生徒へ支援
	3枚のカードを見て、それぞれのカードの中には、どんな武器が用いられているか探し出そう。 平治の乱		元寇		長篠の戦い		
展開 1	課題把握 2	今回の学習の中心となる戦術の比較を、今中材をそれぞれの子にしよう。	グループ	発表内容の整理	グループ側支援	関態資料	T 1 が、対角の位置で指導。 T 2 が、戦術の共通事項を指導。
	3枚のカードを比較して、それぞれを歴史的に古いものから順に並べよう。		発表内容の整理		カード配布		
展開 1	課題把握 2	今回の学習の中心となる戦術の比較を、今中材をそれぞれの子にしよう。	グループ	発表内容の整理	グループ側支援	関態資料	T 1 が、対角の位置で指導。 T 2 が、戦術の共通事項を指導。
	3枚のカードを比較して、それぞれを歴史的に古いものから順に並べよう。		発表内容の整理		カード配布		
整理 1	課題整理	十分に時間をかけ、内容を思考を深化する。	個人	個人支援	個人支援	思考判断 ノート提出	T 1 が、前の段階の生徒のまのまの考えを提示。 T 2 は、対角の位置で指導。
	板書・整理	フリーセッション	個人	個人支援	個人支援		
展開 2	課題把握 3	知識理解面の基礎事項	個人	個人支援	個人支援	資料 ノート提出	鉄砲伝来 鉄砲生産 鉄砲輸入
	作業学習	この時期、鉄砲以外に日本に伝わり、大きな影響を与えたもの？	個人	個人支援	個人支援		
整理 2	板書・整理	この時期、鉄砲以外に日本に伝わり、大きな影響を与えたもの？	個人	個人支援	個人支援	資料 ノート提出	鉄砲伝来 鉄砲生産 鉄砲輸入
予告	次時への発展	この時期、鉄砲以外に日本に伝わり、大きな影響を与えたもの？	個人	個人支援	個人支援		

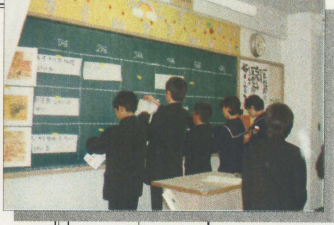


カードに記入各グループごとに掲示発表

発表内容の整理
T 2 / 時代とともに変化したのは、武器だけなのだろうか？

3枚のカードを比較して、それぞれを歴史的に古いものから順に並べよう。

<p>【平治合戦の戦い方】</p> <p>まず舟をあげ、舟に兵士を乗せ、舟を流して敵軍の陣地を襲う。</p>	<p>【室町時代の戦い方】</p> <p>船長による舟先の射撃を行い、船に火を付けたら、舟を流して敵軍の陣地を襲う。</p>	<p>【戦国時代の戦い方】</p> <p>舟先の射撃に代わり、舟の前後から口火が切られるが、舟の移動は速くない。</p>
<p>① 舟を流して敵軍を襲う</p>	<p>② 舟先の射撃で敵軍を襲う</p>	<p>③ 舟の前後から口火を切る</p>
<p>④ 舟を流して敵軍を襲う</p>	<p>⑤ 舟先の射撃で敵軍を襲う</p>	<p>⑥ 舟の前後から口火を切る</p>
<p>⑦ 舟を流して敵軍を襲う</p>	<p>⑧ 舟先の射撃で敵軍を襲う</p>	<p>⑨ 舟の前後から口火を切る</p>



← グループ指導・個別指導を行う場合、互いの行動線が交錯することになり、クラス全体への支援体制をとれる位置関係を保つ。当初は、意識しなからずの体制であったが、実践を重ねるうちに、教員間同士の動きを整えることができてきた。

- 授業案作成段階での役割分担
 - T 1 / 生徒に課題を提示する。
 - T 2 / 授業の各段階で生徒の学習を見とり、個別の支援を行う。
 - T 1 / 生徒の学習事項を評価し思考をまとめる。
 - T 2 / 生徒の思考を深める発展的な発問を提示する。
 - T 1, 2 が互いに補完しあい、思考をより深いものにする。